



特集

令和6年度 1級土木施工管理技術検定・出題内容の総括

一般財団法人地域開発研究所 推進部

第一次検定

実施日	令和6年7月7日(日)	
受検者数	51,193名	
合格者数	22,705名	
合格率	44.4%	
出題形式	択一式	
出題内容	A問題(午前)	必須問題 出題数：5問 必要解答数：5問 選択問題 出題数：61問 必要解答数：30問
	B問題(午後)	必須問題 出題数：35問 必要解答数：35問
合格基準	必要解答数計70問の内42問以上正解で、かつ施工管理法(応用能力)の15問の内9問以上正解	

出題内容



総評

検定制度の見直しに伴い、受検する年度の年度末(3月31日)時点で満19歳以上である者は、実務経験を有することなく1級第一次検定を受検できるようになった。

また、予め試験機関より出題内容について、以下の公表があった。

『第二次検定の所要実務経験年数を学歴に拘わらず一定とすることから、1級と2級の第一次検定問題の充実を図るため、土木施工管理に必要な工学基礎知識を確認できるように、令和6年度以降、新たに土質工学、構造力学、水理学の分野を追加する。』

この追加された分野以外は出題内容も概ね過去問ベースの基本的な問題がほとんどであった。

A問題

工学基礎

土質工学(2問)、構造力学(2問)、水理学(1問)が必須問題としてあらたに追加された。

土工

土工では土質試験結果の利用、現場発生土の利用、軟弱地盤対策工法についての基本的な出題であった。また、盛土の情報化施工については令和元年度から毎年出題されており、ICTに関する出題は完全に定着したと言える。

コンクリート

コンクリートに用いる骨材、配合、養生に関する基本的知識、型枠に作用するコンクリートの側圧に関する基本的知識について出題された。また、特別な考慮を要するコンクリートに関しては、寒中コンクリート及び暑中コンクリートのミックス問題が昨年に引き続いて出題された。



特集

令和6年度1級土木施工管理技術検定・出題内容の総括

基礎工

例年通り、道路橋の基礎形式、打込み杭、場所打ち杭、各種土留め支保工の特徴に関する基本的知識について出題された。

専門土木

分野が多岐にわたるため詳細な分析は省略するが、例年通り、構造物、河川・砂防、道路・舗装、ダム・トンネル、海岸・港湾、鉄道・地下構造物・鋼橋塗装、薬液注入、上・下水道に関する出題であり、概ね過去問ベースの基本的な内容であったと言える。(専門土木は範囲が広いが、受検者それぞれの専門性が生かせる分野であるので、確実に取れそうな問題をうまくチョイスするのが得策である。)

法規

例年通り、労働基準法、労働安全衛生法、建設業法、道路・河川関係法、建築基準法、騒音・振動規制法、港則法の9法令が出題された。ただし、令和5年度まで出題されていた火薬類取締法の出題はなく、代わりに建設業法が1問追加され2問となった。

いずれも過去問ベースの基本的な法律知識を問う問題であり、これまでとの傾向の違いは見られないことから、法規は一見難しそうに思えるが、実は点数を稼ぎやすい分野であると言える。

B問題

共通工学

測量(トータルステーション)、契約(公共工事標準請負契約約款)、設計(ボックスカルバートの配筋図)、建設工事の電気設備が出題された。出題内容はほぼ固定化されており、基本知識を問うものであった。設計(配筋図)は令和6年度を含め6年間で5回出題されており、L型擁壁またはボックスカルバートのいずれかである。それ以外では土積曲線(マスカーブ)が出題されることもある。

また、年度によっては電気設備ではなく、建設機械が出題されることがある。

施工計画

知識問題では施工計画立案についての一般的な考え方、応用能力問題では仮設工事計画の立案、工事に伴う届出及び許可、土留め工の施工、建設機械の選定が出題された。

工程管理

知識問題では、ネットワーク式工程表の所要日数を求める基本的な問題であり、クリティカルパスについての知識があれば十分に対応できる。応用能力問題では、各種工程図表の特徴、品質・工程・原価の相互関係、工程管理曲線(バナナ曲線)についての基本知識を問う問題が出題された。



安全管理

知識問題では、特定元方事業者が講ずべき措置、安全衛生管理組織(統括安全衛生責任者等)、労働災害防止対策の一般事項、足場・作業床の組立て等に関する安全基準(数値)、明り掘削の作業にあたっての事業者の遵守事項、墜落災害防止対策、コンクリート建造物の解体作業での留意事項について出題された。応用能力問題では、車両系建設機械、移動式クレーンの災害防止、工事中の埋設物及び架空線の損傷等の防止対策、酸素欠乏症防止対策について出題された。

土木工事の場合、工事の規模とその特性から安全管理の出題は多岐にわたるが、知識問題、応用能力問題とも難度が高いということはなく、出題パターンが固定化されているため、過去問ベースの基本的な知識で対応できる内容であったと言える。

品質管理

知識問題では道路のアスファルト舗装の一般的な管理方法、路床や路盤の品質管理に用いられる試験方法、レディーミクストコンクリートの受入れ検査について出題された。いずれも例年通りの出題であり、基本的な知識で対応できる内容であった。

応用能力問題では、品質管理で用いる管理図、情報化施工におけるTS、GNSSを用いた盛土の締固め管理、鉄筋継手、コンクリート建造物の非破壊検査について出題された。応用能力問題はこの4年間で一つのパターンを形成しており、特に情報化施工については毎年出題されている。

ほかの年度では、品質管理の手順についての一般的な考え方、鉄筋の組立て検査、プレキャストコンクリート建造物の部材の接合についての出題が見られる。

環境保全・建設副産物対策

環境保全では、周辺環境対策における一般論としての騒音・振動低減対策と土壌汚染対策が出題された。

建設副産物対策では、建設リサイクル法、廃棄物処理法を中心とした建設廃棄物の再資源化や適正な処理についての基本的な知識を問う問題が出題された。

第二次検定

実施日	令和6年10月6日(日)		
受検者数	27,220名		
合格者数	11,224名		
合格率	41.2%		
出題形式	記述式		
出題内容	問題1～問題3	必須問題	出題数：3問 必要解答数：3問
	問題4～問題7	選択問題	出題数：4問 必要解答数：2問
	問題8～問題11	選択問題	出題数：4問 必要解答数：2問
合格基準	得点が60%以上		



特集

令和6年度1級土木施工管理技術検定・出題内容の総括

出題内容



総評

予め試験機関より出題内容について、以下の公表があった。

『受検者の経験に基づく解答を求める設問に関し、自身の経験に基づかない解答を防ぐ観点から、1級と2級の第二次検定においては幅広い視点から経験を確認する設問として見直しを行う。』

これを受けて、施工体制台帳に関する問題が第二次検定としては初めて出題された。

全体としては、必須問題3問、選択問題8問が出題され、うち選択問題No.4～7(穴埋め問題)から2問解答、選択問題No.8～11(記述問題)から2問解答という構成は従前と変化はなかったが、安全ネットの構造や施工体制台帳の記載事項といったあらたな出題があった。

問題1 (必須問題) 施工経験記述

出題内容に変更があり、2つの管理項目(安全管理、施工計画)について、経験した工事の概要とその工事における技術的な課題と、その課題を解決するために検討した項目、対応処置とその評価の記述が求められた。

なお、令和5年度まで記述が求められた「検討の理由」については設問から外された。

問題2 (必須問題) 安全管理

墜落による危険を防止するためのネットの構造等の安全基準に関し、空欄に適切な語句又は数値を記述することが求められた。ネットの構造に関しての出題はこの10年間で初めてであるが、墜落防止対策に関しては繰り返し出題されており、今後も出題の可能性は極めて高い。

問題3 (必須問題) 施工計画

新傾向問題として、施工体制台帳に関し、建設業法及び公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律で定められていることについて5つ記述する問題が出題された。第二次検定では初めて出題される分野であった。

これらは第一次検定では学習の対象となる分野であるが、今後第二次検定においても施工計画の一環として学習しておく必要がある。

問題4 (選択問題) コンクリート

暑中コンクリート打込み時の留意点に関する5つの文章の穴埋め問題が出題された。平成29年度、27年度にも類似問題が出題されている。

問題5 (選択問題) 土工の品質管理

土の締固めにおける試験及び品質管理に関する4つの文章の穴埋め問題が出題された。基本知識で十分対応できる問題であった。令和4年度、平成27年度にも類似問題が出題されている。

問題6 (選択問題) 安全管理

移動式クレーン作業における労働災害防止に関して5つの文章の穴埋め問題が出題された。基本問題で十分対応できる問題であった。令和3年度、令和元年度、平成28年度にも類似問題が出題されている。

問題7 (選択問題) 土工の品質管理

TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理において、5つの文章の穴埋め問題が出題された。やや専門性の高い内容であったが、こうした情報化施工については令和4年度からの新傾向問題と言える。今後も出題の可能性は高い。

問題8 (選択問題) 施工計画

切梁式土留め支保工内の掘削にあたり、①掘削順序 ②過掘りの防止 ③場内排水 ④漏水、出水時の処理から2つ選び、留意点又は実施方法についての記述が求められた。令和4年度にも類似問題が出題されている。

問題9 (選択問題) コンクリート

コンクリートの打重ねに関し、コールドジョイントの発生を防止するための打込み又は締固めに関する対策を2つ記述することが求められた。コールドジョイントに関しては令和6年度を含め過去10年間で4回出題されており、頻度の高い問題である。

1つの文章に多くの要素を詰め込まず、ポイントをうまく分散して記述するのがコツである。

問題10 (選択問題) 安全管理

足場(つり足場を除く)における作業に関し、悪天候もしくは中震以上の地震または足場の組立て、一部解体もしくは変更の後に事業者が点検すべき事項について2つ記述することが求められた。

足場に関する安全対策については、令和2年度にも類似問題が出題されている。

問題11 (選択問題) 施工計画(環境保全)

建設工事に伴う騒音又は振動を防止するための具体的な対策又は調査について5つ記述することが求められた。騒音・振動の低減対策については令和2年度にも類似問題が出題されているが、環境保全の観点から今後も数年おきに出題される可能性がある。

試験のワンポイント

以上のように令和6年度からは新しい試験制度となったが、第一次検定、第二次検定ともに受験対策としては過去問題を繰り返し解くなどの反復トレーニングにより、頻出(類似)問題の出題パターンと基本事項を確実に押さえておくのが最も有効である。特に第二次検定は問題数が少ないことから、過去10年分を見ておくのがよい。



※推奨する書籍(一般財団法人地域開発研究所発行)

【第一次対策】 「土木施工管理技術テキスト改訂第3版」「1級土木施工管理技術検定問題解説集2025年版」

【第二次対策】 「1級土木施工管理(第二次検定)問題解説集2025年版」(本年4月発行予定)

令和7年度 受験準備講習会を実施予定。※P18 講習会開催案内をご確認ください。